



『まえだとし女 六百五十句』



まえだとし女

鉄棒のあたりが持場運動会
運動会了へ古里の土埃

甚平のをとめら雨の堤行く

浴衣風ワンピースの兎走り出す

深秋のカンナと出あふ江戸川区

金糸草酒の香過る文字焼屋

涼新た五十年後の不動前

面取りを微妙に省き南瓜煮る

悪役が然り気なく来し運動会

あれこれとその空気感秋の蚊帳

『まえだとし女 六百五十句』

